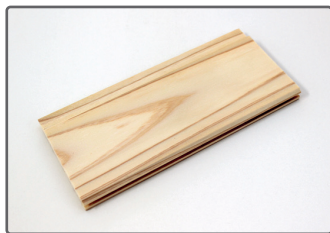


まずは、確認と下準備



① 木の表面確認

塗装する表面のほこり、水分、油分等を取り除いて、必要に応じてサンドペーパー(#180~240)で表面を研磨して整えてください。



② 塗料の攪拌(かくはん)

使用前に攪拌棒等でよくかき混ぜてください。カラーが顔料が底に沈んでいるので、しっかり混ぜてください。

※うすめ液を入れる際は、お好みの量を塗料に入れて、しっかり混ぜてください。

木目を活かす場合 (ハード、スタンダード対応)

屋内
木部向

③ 塗装



刷毛またはスポンジ等で、薄く均一に塗布してください。

おすすめ 布(ウェス)に直接塗料を付けて塗装すると、ふきとりもいらず、きれいに仕上がります。

※厚塗りは塗料不良の原因となりますので、塗りすぎ厳禁です!
※粗木、経年した木材の場合は、通常より3倍以上塗料を吸う場合がありますので、ご注意ください。

④ ふきとり



塗装して1~10分経ちましたら、木が吸収しきれず表面に残った塗料をきれいな布でふきとってください。

※スタンダードの場合は、しっかりとふきとりを行わないと乾燥不良やベタツキの原因となります。
※ハードでふきとりの場合も、しっかりと行ってください。(仕上がりがムラを予防するため)

⑤ 乾燥 (気温20℃程度)



ふきとり後、ほこりやゴミ等がかからないようにして、約12~24時間乾燥させてください。

乾燥時間の目安
●スタンダード…約24時間
●ハード……………約12時間

※温度、湿度により乾燥時間は変化します。気温が低い、湿度が高い場合は、長めに乾燥時間を取ってください。

木目をつぶす場合 (ハード、スーパーハード対応)

屋外
木部向

③ 塗装 (1回目)



刷毛またはスポンジ等で、薄く均一に塗布してください。

※厚塗りは塗料不良の原因となりますので、塗りすぎ厳禁です!
※粗木、経年した木材の場合は、通常より3倍以上塗料を吸う場合がありますので、ご注意ください。

④ 乾燥 (気温20℃程度)



ほこりやゴミ等がかからないようにして、約24時間乾燥させてください。

※温度、湿度により乾燥時間は変化します。気温が低い、湿度が高い場合は、長めに乾燥時間を取ってください。

⑤ 塗装 (2回目)



屋外では耐候性を高めるため、1回目の塗装が乾燥した後に、上記の③→④の要領で2回目の塗装を行ってください。



馬毛、豚毛のようなコシの硬いもので、薄塗りを心がけてください。



使い古したTシャツなど薄手で手触りの良いものに、塗料を少量付けて塗装してください。



塗装に使用した刷毛、スポンジ、布(ウェス)等は、放置しておくとも自然発火の可能性があります。使用後はすぐに水に浸けるか、焼却処分してください。刷毛を繰り返し使用する場合は、周辺製品「U-OIL専用クリーナー」をご参照ください。

取扱上のご注意

- 木材の種類により色の映え方が異なる場合がございますので、実際にご利用になる材に試し塗りをしてからご使用ください。
- 成分、顔料が沈殿しておりますので、缶の底から攪拌棒などで、よくかき混ぜてご使用ください。
- 他の自然塗料、化学塗料、ワックスと混ぜないでください。
- 厚塗りは、乾燥不良、ベタツキの原因となりますので、ご注意ください。
- 粗木や経年した木材に塗装する場合、吸い込みが増えることにより通常よりも塗料を多く消費します。通常の塗布量よりも3倍以上必要になる場合がありますので、十分ご注意ください。
- 施工マニュアルに記載されている乾燥時間は、気温20度における目安です。木の種類、気象条件(温度、湿度)により乾燥が遅くなる場合がございます。イペ、ウリン、セランガンバツ等硬質な木材は、塗料が浸透せず、乾かないことがありますので、十分ご注意ください。
- 使用した刷毛、布(ウェス)は水に浸け、水分を含んだ状態で処分してください(自然発火防止)。そのまま処分すると、植物油を使用しているため、酸化重合により自然発火の恐れがありますので、取扱いには十分ご注意ください。
- 使用後は、直射日光の当たらない涼しいところに保管してください。なお、開封後は塗料が徐々に酸化していき、表面に膜が形成されたり塗料が固化する場合がありますので、お早めにご使用ください。

開封後の保管方法

U-OILは開封後、主成分の亜麻仁油(植物油)と空気中の酸素が反応し、「塗料の上面に薄い膜をつくる」ことがあります。また、さらにこの反応が進むと、かなり厚い膜になったり塗料が固化することがあります。この現象を避けるためにも、残った塗料は早めにご利用ください。

保管する際の手順

- ① 缶の口が付いた塗料、塗料の固まりをウェス、ドライパー等を使い、キレイに取り除きます。
- ② 缶のふたを閉め、ゴムハンマー等で軽く叩いて密閉してください。
- ③ 缶のふたを押さえながら、上下に軽く振ってください。(塗料が噴き出さないように注意してください) ※缶容器を上下に振ることにより、缶の中にある酸素の滞留を防ぐ効果があります。
- ④ 缶をビニル袋に入れ、空気が入らないようにして、密封してください。
- ⑤ 次回使う際、薄い膜ができた場合は、膜を取り、よくかき混ぜてご利用ください。